

〔春陽会 画家の原稿〕

・昭和十二年頃

展覧会の無事 一寸一服

国産の絵の具

木村 莊八

国産の絵の具も大分出来がよくなつて結構なことだ。練り具合などはま
ず善いやうである。

僕はかれこれ二十年も前に京都で国産の油絵の具を買つて、会社の名は
忘れたが、鉛白を使つたところが、練り油と絵の具が全く遊離してゐて、
それが又いつ迄経つても表面が乾かずにゐて、弱つたことがある。結局表
面が剥がれて、皮膚病のやうになつた。それから思ふと、進歩したもので
ある。

決して舶来崇拜ではないにしても、絵の具と画布とは未だ内国産は不安
心で——画布は現在でも大体から見ても悪いやうだ。どうも、肝腎の発色が
よくいかない。これは、布そのものの出来が悪いと云ふよりは、材料店で
適当に枯らしてくれずに、国産ものは出来たてを直ぐそばから売るので、
為めにいけないのかも知れない——つい手がだしくかつた。しかし、さ
う／＼も云つてゐられないので、今年はためしに文房堂製とクサカベとを
一通り買つてみた。僕は昔はケンブリッジが好きで使ひ、エドワールだ

とかL・C・Hが好きになり——エドワールの岩ウートルメルやL・C・
Hのノアル・レジエーは殆ど代品は無いと思つて、僅か残りの二、三本を
愛惜してゐる——補充としていつもルフランやブランシエものを用ゐる。
近頃ではケンブリッジ、エドワール、L・C・H、皆僅かになつたので、ア
ンポールとブロックスに代へてゐる。

今度国産品をためしに一通り揃へて見ると——しかし、変色のためしま
では未だつき合ふ氣になれないので、赤系統と黄系統の色には手を出さな
かつたが、茶系統の色はざつと善いやうである。マルス黄などはいけない
が、それと、テレヴァルトと云つたやうな中間色(アンポールのテレヴァ
ルトは冴へた善い色である)とグリ系統の色がうまくいつてゐない。並べ
て見れば殆ど僅かの差ではあつてもL・C・Hのグリ・ヴァールと国産を比
べると、色価が間一髪のところ、一方はちゃんと光りを抑制した「灰」
調に色が立つて澄んでゐるのに反して、未だ国産の「灰」は光りとも影と
も何れにも付かない簡単な「灰」によりがちで、云ひ代へれば、混濁色に
近づくやうだ。この辺をこの先き改良してくれると、国産もやがて充分大
丈夫のものになるだらう。絵の具が国産で行くやうになつてくれれば、こ
れに越すことはないのである。

——変なことを云へば、絵の具が国産で充分よく行くやになれば、即ち
油絵も国産で充分よく行くやうになる……なんぞと、批評家に云はれて
箴いしまを成し兼ねないことだ。互ひにあと何年の事業だらう。